

■ 中学入試「国語」で「『聞き取り』を含むことがある」

・なぜ「聞き取り」をアナウンスするのか？（出題の前提）

「ここ十年ほど、生徒諸君の『聞く力』が、ひどく落ちており、人の話がよく聞けず、一人合点をする諸君が増加している。」

「入試は『文字言語』に偏った試験であるので、『黙読・速読による記述』に傾くのは仕方がないが、『音声言語による受容と表現』も、国語教育から欠落させてならないのは自明である。」

「本校では、面接試験がなく、『話す力』を直接試すことはできないので、『聞く・書く』という形で『聞き取り』を考えるのは、本校の国語入試における言語世界の拡大を意図する。」

・具体的に、どういう方法になるのか？

「本校高校入試『英語』のリスニングの形式、即ち『放送』を使って行う。受験生には、設問のついた解答用紙だけが配布される。」

（入試終了後、「聞き取り」に使った本文は公表する。『放送』を使うが、朗読は一回のみ。放送中メモをとり、解答してよい。）

・どの程度の文章になるのか？

「三分以内で読める、千字程度の文章・小学生が理解できる程度の語彙」（現在、多様なジャンルの文章で問題を作って検討中）

・「作文」との関わりは？

「今までの『作文』に出題した、多様な素材の一つとして『音声言語』を加えた、と考えていただくのが、最も分かりやすいか。したがって、時間配分も、放送三分、答えるのに十分程度で可能なものを用意している。」

「『作文の配点比重』は、昨年通り。」